

国立大学法人 山口大学



山口大学 学長 谷澤 幸生

山口大学 SDGs貢献の3つの柱

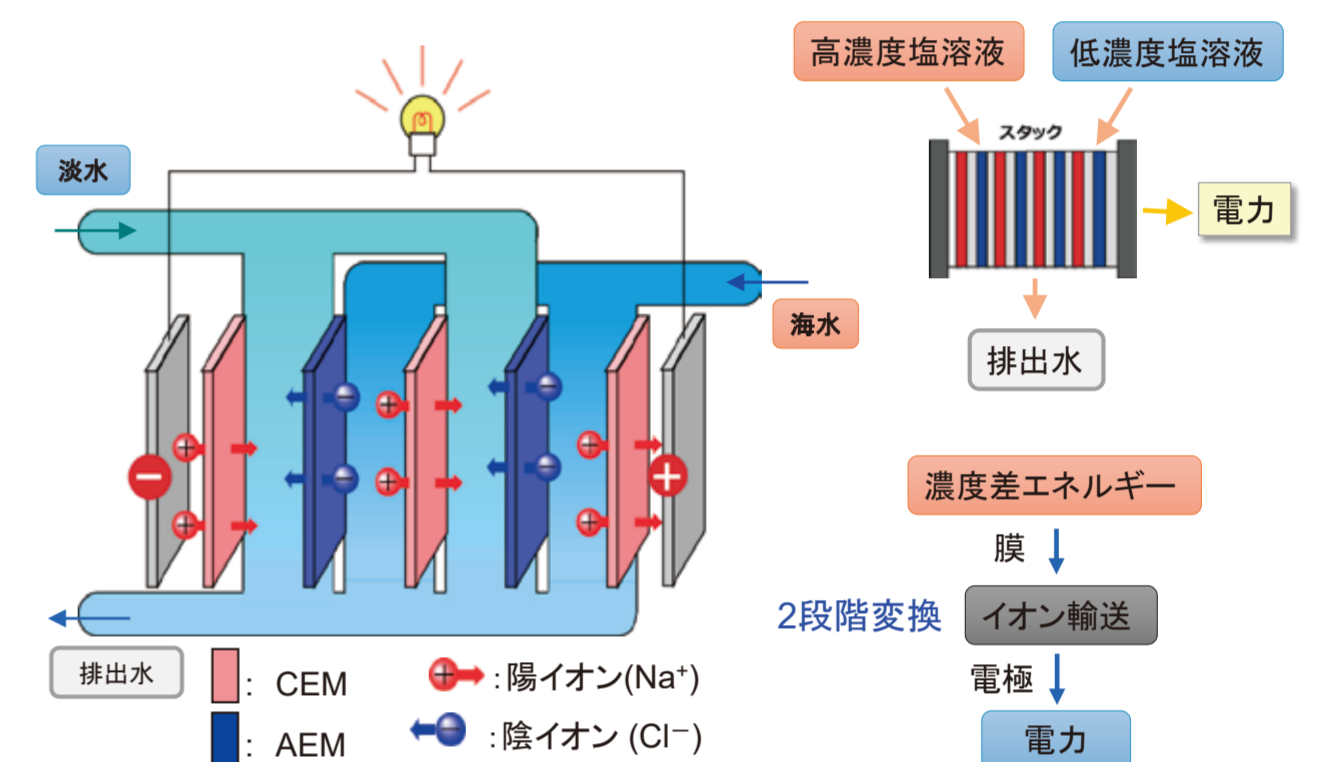
- 教育貢献:SDGsを推進する人材の育成
- 研究貢献:SDGs達成に資する研究の推進
- 国際・地域貢献:知のリソースを生かした国際・地域社会との協働

海水と淡水間の塩分濃度差エネルギーを電力に変換する逆電気透析発電

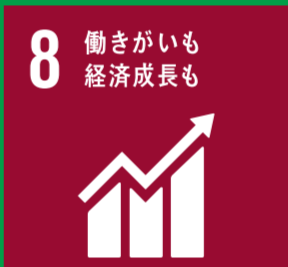


本学工学系領域の比嘉教授がセンター長を務めるブルーエネルギーセンターでは、海水と淡水の塩分濃度差エネルギー(SGE)を電力に変換する逆電気透析(RED)発電技術の研究開発に取り組んでいます。これは、電気透析(ED)の逆プロセスを利用するもので、陽イオン交換膜(CEM)と陰イオン交換膜(AEM)を多数対配置した「スタック」と呼ばれる装置を使用します。

SGEは、風力や太陽光発電にはない高稼働率(理論上24時間365日稼働可能)、小設置面積という利点を持ち、海に囲まれた日本に適した純国産エネルギー源として大きな可能性を秘めています。海水1m³と淡水1m³の混合で約1.8MJ(500Wh)のエネルギー発生が試算されており、この技術開発を通じて、わが国のエネルギー問題の解決に貢献することを目指しています。



宇部市の戦略補佐官に山大医学部生を任命



宇部市が今年度から開始した「日本一学生が活躍するまちづくり事業」の中心的な役割を担う学生活躍戦略補佐官に、山口大学医学部医学科5年生の平井貴大さんが任命されました。

市長から任命書が手渡された平井さんは、早稲田大学卒業、NHK勤務を経て山口大学に学士編入した経歴を持ち、現在は学生団体が立ち上げたUBE COLの社長も務めています。

宇部市は、地方創生に取り組む全国地方都市のモデルとなる「日本一学生が活躍するまちづくり」にチャレンジし、「若者に選ばれるまち、若者が選びたくなるまち」の実現に取り組んでいます。



山口大学工学部、宇部高専、宇部市がデジタル人材の育成等に関する協定締結



山口大学工学部、宇部工業高等専門学校、および宇部市は、デジタル人材の育成と学生の地元定着を図るための連携協定を締結しました。

この協定に基づき、三者は学生や市民を対象とした「ワクワク未来デジタル講座」(全15回予定)を開設し、デジタル化を推進するための人材を育成します。宇部市長はデジタル人材を「魅力となり武器になる」と期待し、山口大学工学部長はSTEAM教育を取り入れ、理系と文系を融合した新たな人材輩出を目指しています。本取り組みは、デジタル技術による地域の課題解決と、若者の地元定着促進を通じて、宇部市民のWell-Being(しあわせ実感)の向上を目指すものです。



「総合的な探求の時間」での出前講義



「総合的な探求の時間」でSDGsを題材として扱う県内の高校において、出前講義を実施しています。

2025年10月6日に山口県立宇部中央高校において実施された出前講義では、生徒がグループ毎に、それぞれが選択したSDGsの各ゴールに関連した課題(問題意識)について、なぜその課題に着目したのか、また今後どのように探究活動を展開する予定か、等の点について発表を行い、担当した教員がコメントや指導を行いました。

